

2016年3月25日

内閣府地方創生本部・地域運営組織有識者会議第2回資料

住民主体の地域再生

— 課題の「解」の創造と「合意」の創造 —

山浦晴男

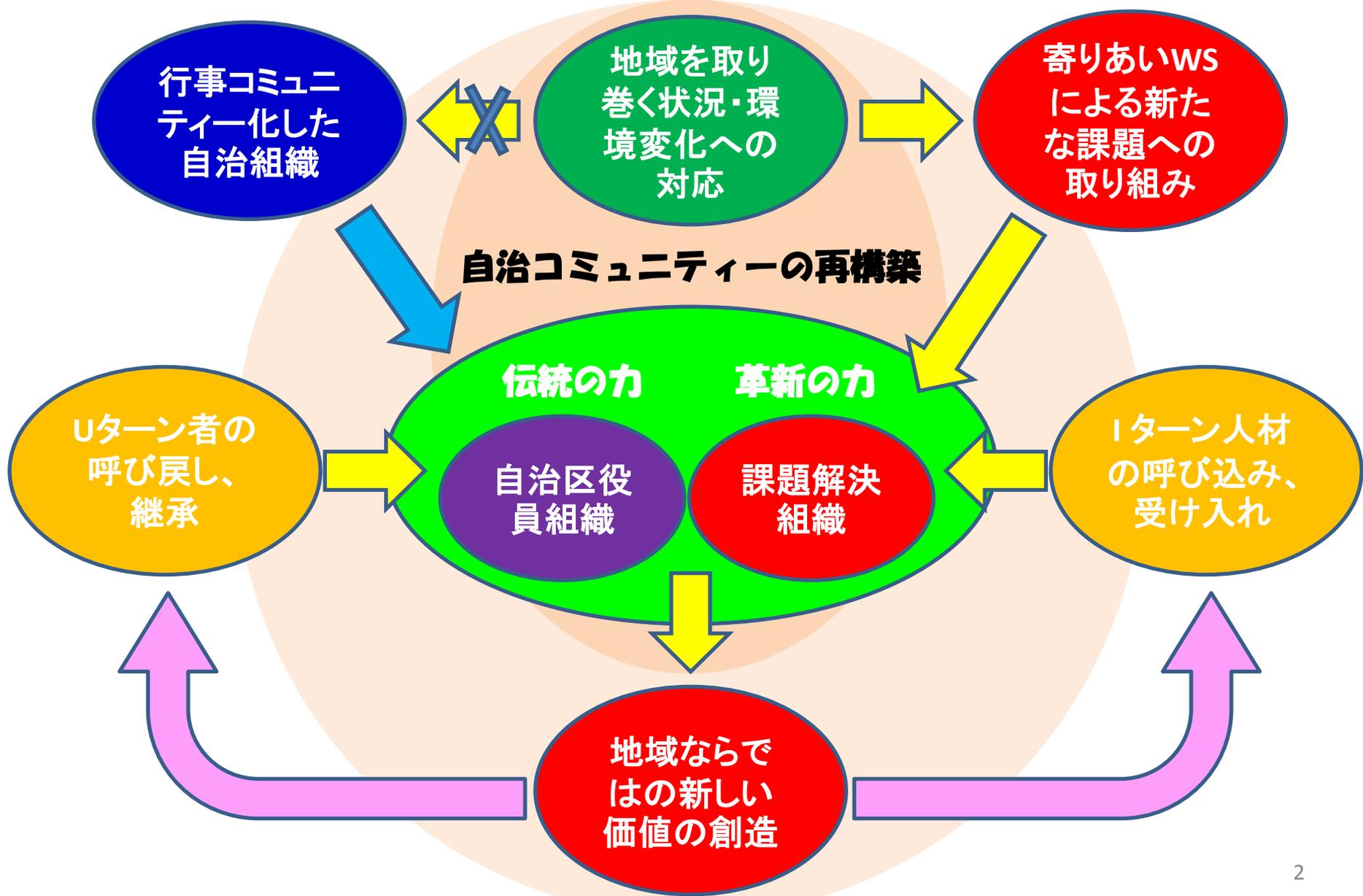
情報工房 代表

千葉大学大学院看護学研究科 特命教授

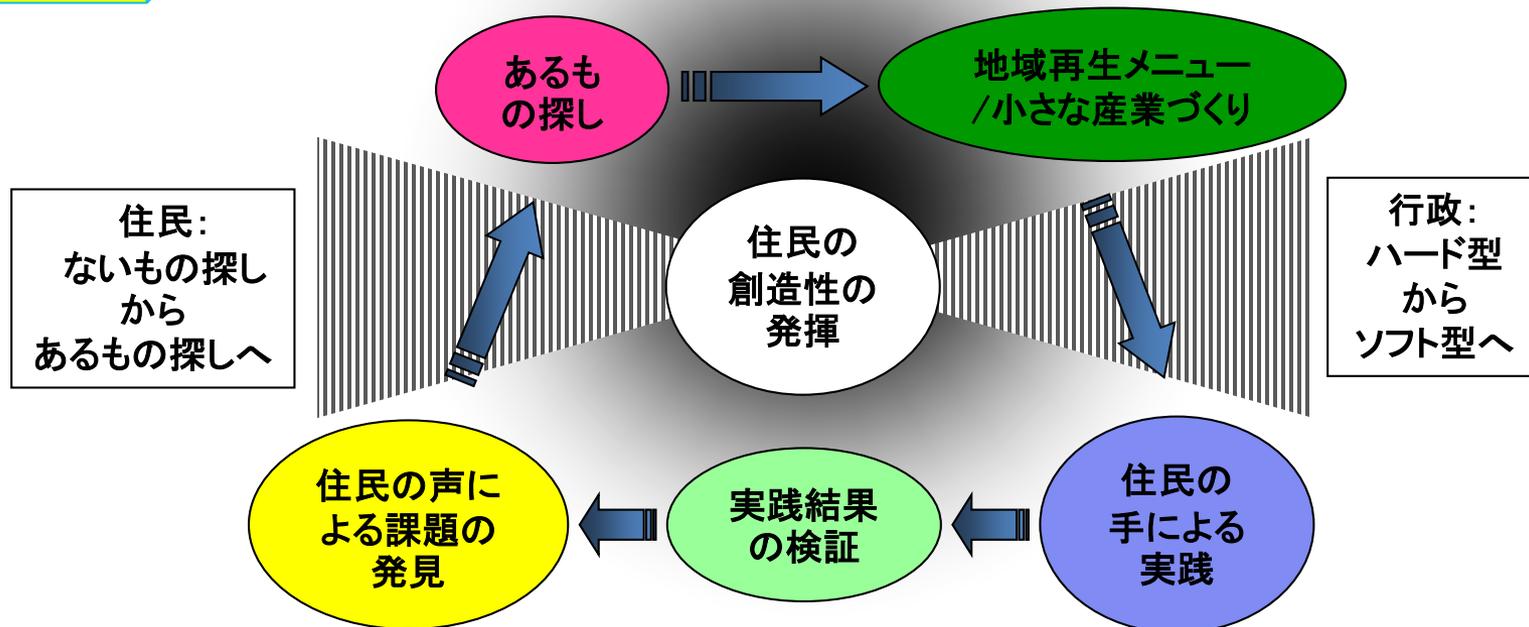
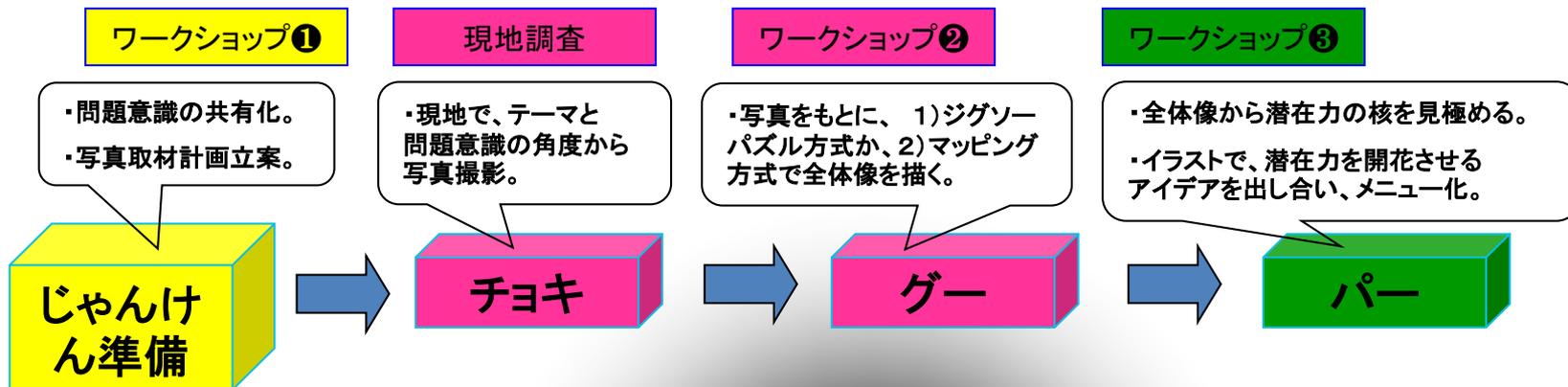
北陸先端科学技術大学院大学 非常勤講師



地域再生の原理：地域再生に向けた地域自治組織の再構築



寄りあいワークショップの仕組み



第1回WSの進め方



外目から見た姿
(資源写真地図)



グループで意見交換



全体で「意見地図」作成
重要度評価

和歌山県
かつらぎ町天野地区



「意見地図」と投票結果



WS感想記入

簡易カメラ (又はデジカメ)

第2回WSの進め方



グループで写真分析



全体で発表会



迫真に迫る発表



和歌山県高野町富貴地区



内の目から見た「資源写真地図」



WS感想記入

第3回WSの進め方



イラストアイデアを発表

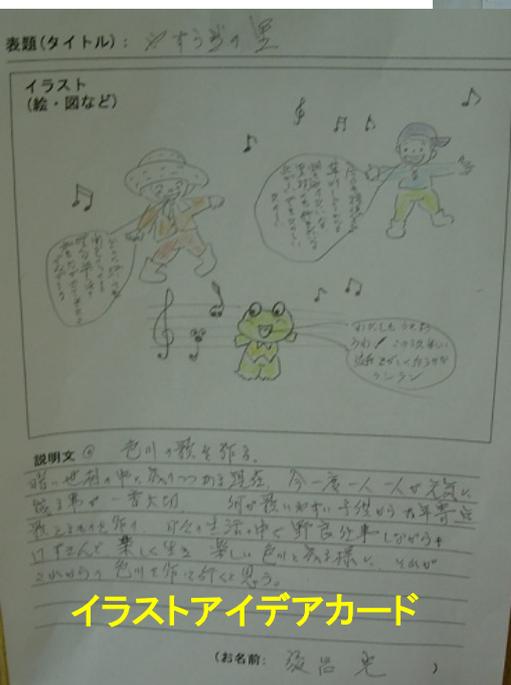
和歌山県
那智勝浦町色川地区



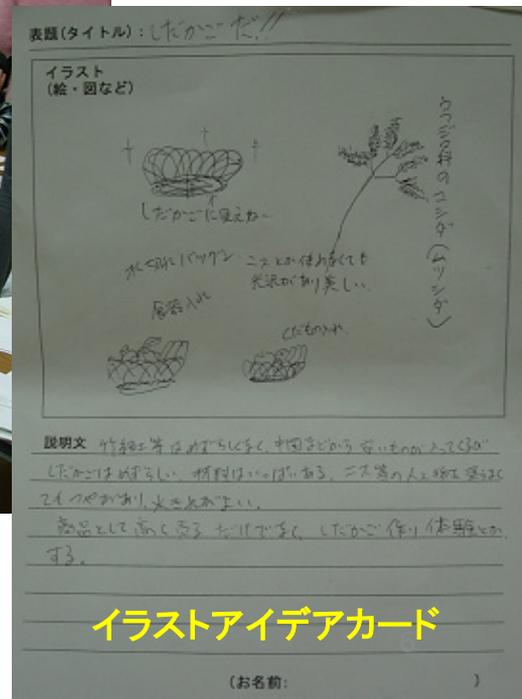
イラストアイデアを発表



「イラストアイデア地図」作成と優先度評価



イラストアイデアカード



イラストアイデアカード

実行計画の橋渡し：次頁

順位		アイデア	得点
1	L	里芋の栽培と焼酎づくり	34
2	Q	龍神産地直売所	23
3	A	伝統的な暮らしの再現(体験)	17
4	S	龍神直送便	16
5	い	高野・熊野 “止まり木の里”つくり	12
6	R	農家レストラン	11
6	V	花いっぱい夢公園づくり	11
6	き	まじめにゆず丸ごと加工	11
9	C	女性向け龍神まるごとプラン	10
9	E	家族向け 心体験合宿	10
9	F	教育・スポーツの合宿	10
12	あ	林業の活性化	9
13	W	観光業者と農家の連携による地産地消づくり	8
14	J	農業と加工体験	7
14	M	付加価値のある雑穀のブランド化	7
14	N	大豆類を第3の産品に	7



優先度の評価順位	アイデア項目	難易度(ABCランク)	緊急度(いつまでにやるか) (○印の記入)			役割分担・主体(誰がやるか) (○印の記入)			着手順位	備考
			早く(1年以内)	2~3年以内	ゆっくり(4~5年以内)	住民	協働で	行政		
1	里芋の栽培と焼酎づくり	B		●		●			1	
2	龍神産地直売所	C		●		●	●		2	
3	伝統的な暮らしの再現(体験)	C	●			●			4	高齢者
4	龍神直送便	B		●		●			2	連携先は協議
5	高野・熊野“止まり木”の里づくり	B			●	●	●		5	
6	農家レストラン	B				●	●		4	内容を詰める必要有り
6	花いっぱい 夢公園づくり	B			●	●			3	
6	まじめにゆず丸ごと加工	B		●		●			1	現在取り組んでいる人と協議

今回のWSで、龍神村ブランド構築に向けたネットワークづくりの基盤ができたと思われる。事実、実行の着手順位第1の「里芋の栽培と焼酎づくり」と「まじめにゆず丸ごと加工」はすでに実行の手が打たれ出している。里芋焼酎造りは地区外の酒造メーカーに打診がなされ、協力を取り付けている。次年度の里芋栽培の拡大の方向も打ち出されていると聞く。「まじめにゆず丸ごと加工」は、すでに商品化がなされ、販売の試みも始まっている。

また、農水省の平成20年度「農山漁村地域力発掘支援モデル事業」の追加公募にも、今回のWSの受け入れ組織が母体となり全参加者連名で応募して採択されている。



製品・霜降りゆずの
コンフィチュール
(龍神は～と提供)



里芋焼酎試飲によるアイデア提案

計画の実行

福

結び



限定生産
ほいも焼酎

大切な人と
過ごす
特別な日に！

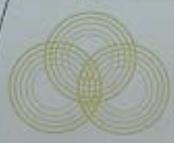
祝賀の時、感謝の時、心と体に健やかなるようごびそ。
人生で最高の記念日に



完売



清らかですっきり優しい味わい



神祕の国紀州のおくまで「龍神村」で大切に育てられた
無農薬の里芋から
生まれた焼酎です。

TECHI

アルコール度数 35% (純米酒類)
720ml 3,500円 (税込価格)

HOIMO

アルコール度数 25% (純米酒類)
720ml 2,500円 (税込価格)

本日はお慶びです。この酒は、龍神村から「里芋」を原料として、蒸す、もろみ、蒸留、ろ過、瓶詰めまで、この酒は「里芋」一筋のこだわりで、大切な人と過ごす特別な日に、ぜひ飲んでいただきたいです。龍神村の里芋は、無農薬で育てられています。お楽しみください。



企画 龍山漁村 龍神村 龍山漁村 龍神村 龍山漁村 龍神村 龍山漁村 龍神村
製造元 美濃酒造協同組合 長野県北九条市龍神町3-1-1



計画の実行

畑一面の里芋栽培をイメージしていたが、意外だった畑の1列の畝と富田代表（20戸をこえる関係者が栽培に参加）



農山漁村地域力発掘支援事業は初年度をもって「事業仕訳」されたが、2010年8月に製品が蔵出し、住民の力で販売に漕ぎつける

龍神村にみる地域再生の原型モデル

里芋焼酎
「てち・ほいも・じじばば」



イベント・里芋汁の振る舞い



里芋コロッケ



みらい龍神＝里芋
(H21)20戸
⇒126戸(H26)
栽培拡大



里芋汁



霜降りゆずの
コンフィチュール



田んぼアート「温泉マーク」

- コンセプト:「龍神村」をなくしたくない⇒「龍神村」ブランドの構築(ビジョン)
- 地域にあるモノ・コト(起点):里芋(黒づる品種)は煮て食べるとおいしい(価値)⇒里芋焼酎、里芋コロッケ、里芋汁、イベント、アート+∞(新しい価値の創造)
- 推進力:地元住民・Uターン者・Iターン者の協働(伝統と革新の連携、異質の連携)

地域再生起動ステップガイド

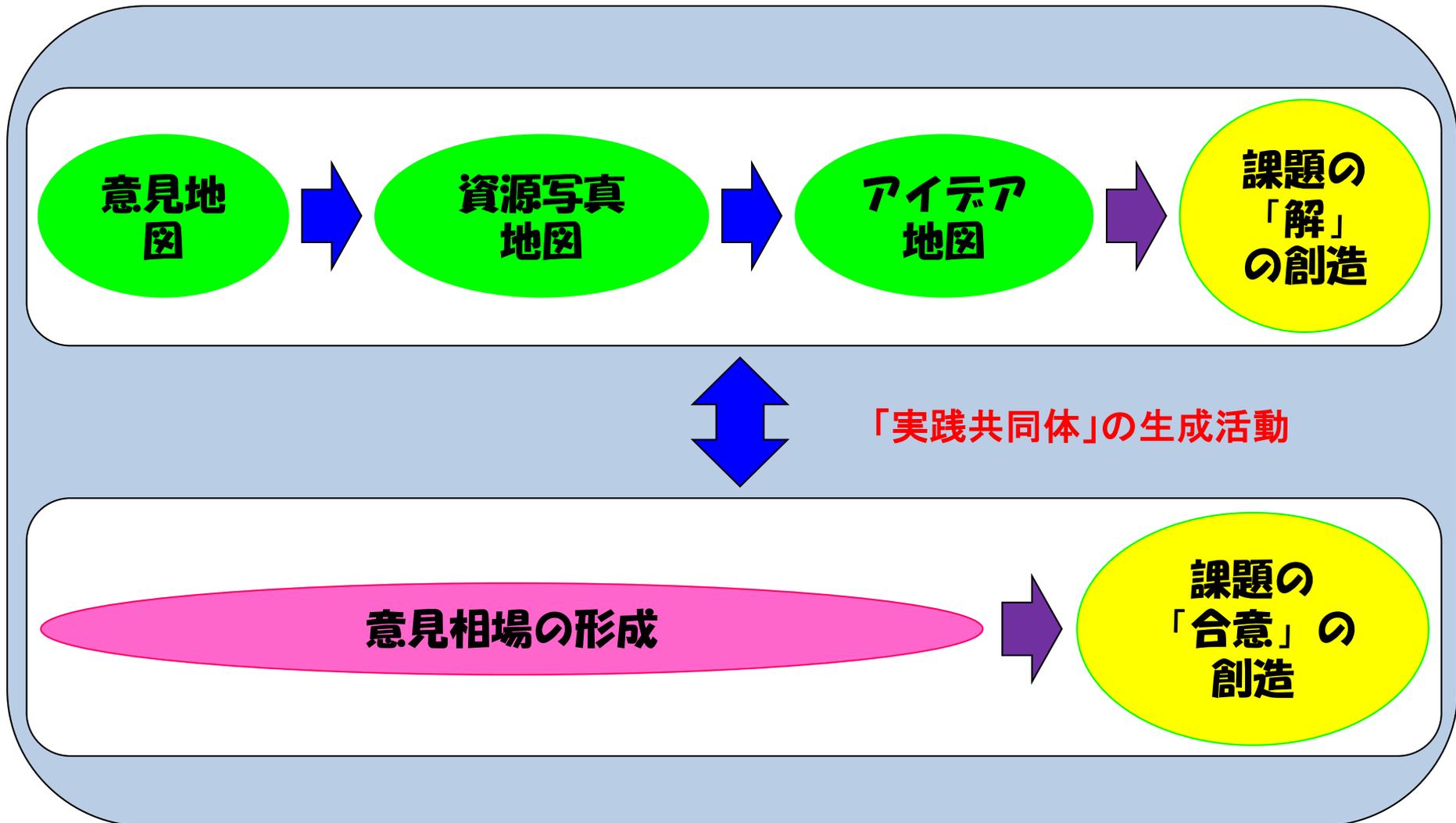
ステップ	ステップ名	所要時間	作業内容	実践結果
0	設営・提供		行政から地域に対して、地域再生にむけてワークショップの導入・開催を働きかける。	
1	事前調査	10時間	ファシリテーター側が、行政並びに住民の案内で地域を写真取材（写真撮影と聞き取り調査）し、外部の視点で地域の特徴をとりまとめる。「外から見た資源写真地図」を作成。	
2	課題の明確化 (第1回WS)	2.5時間	1. WSの進め方とアウトプットの活かし方を説明 2. 事例紹介 3. 「外から見た資源写真地図」を説明 4. それを呼び水に意見交換（地域の悩みや問題、将来像を自由に）→「意見地図」を作成 5. 「意見地図」の重要ポイントの重み付け（皆で投票・評価） 6. 次回までの写真撮影の要領の説明	住民は、「やはりそうか」と互いに思う方向が同じであることを確認、共感し合うことが多い。
3	現地調査	2～3週間	住民自らが地元を探検し、重点課題を解決し地域を元気にする角度から、もの、こと、シーンの写真取材を行なう。	
4	実態把握 (第2回WS)	3時間	1. 各自持ち寄った写真をもとに、模造紙の上に写真分析法を用いて「資源写真地図」を作成。個々の写真からは気付かない深い理解につながる地域の姿が映し出される。 2. 班ごとの「資源写真地図」を全体で発表し、より視野の広がりをもった理解をはかる。 3. 次回までのアイデアだしの要領の説明	住民は、互いに地域の暮しと歴史、文化の知識の欠落に気づき、共有化が起こる。
5	アイデアだし	2～3週間	住民自らが、「イラストアイデアカード」にイラスト（絵や図、マンガ）を用いてアイデアを描き、解説文をつける。一人5枚のアイデアカードを目標。	
6	解決策・実行計画立案 (第3回WS)	2.5時間	1 全員でアイデアカードの内容を紹介し合いながら、暮し再生にむけた「アイデア地巣」を描き出す。 2 「アイデア地図」のどの内容から優先的に取り組むかの重み付け（皆で投票・評価） 3 具現化の取組みへの橋渡しとして「実行計画」を立案	住民は知恵の宝庫だと判明し、実現への意欲が芽生える。



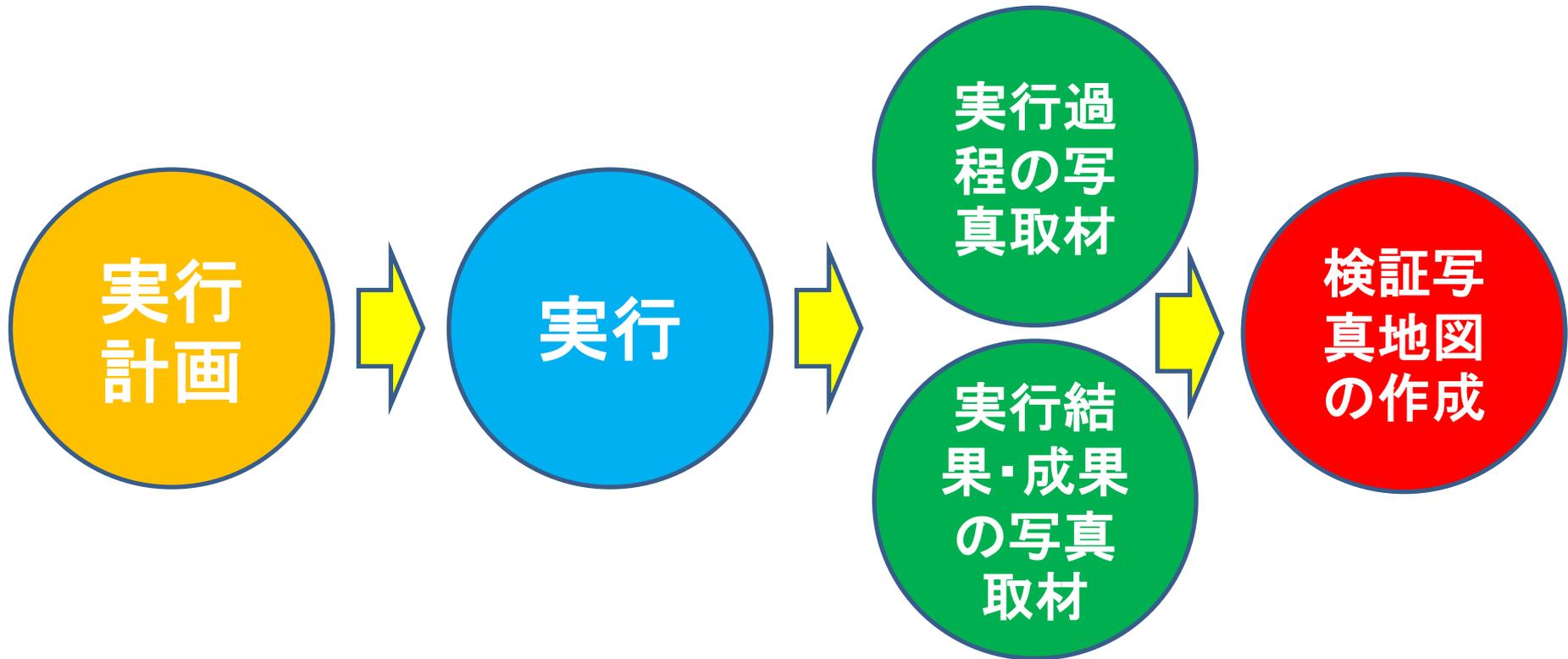
7	実行組織の立ち上げ	できる限り短期間に	ファシリテーターの手から離れ、住民主体のもとに、行政が支援役を果たしながら、実行組織を立ち上げる。 通常は、ワークショップ参加者がメンバーの主体となり、リーダーを選任する。	
8	実践と取材	1年間程度	実行組織のもとで行政の支援もえながら、定期的に会合を開き、計画を煮詰める。そして、計画の実現に取り組む。取り組み経過と様子、結果、成果、新たな課題などを写真取材する。	
9	結果の検証 (フォローアップWS1)	2.5時間	実践のなかで撮影した写真をもとに、「検証写真地図」を作成する。それに基づき、実行計画の達成状況を検証し、次の課題を見定める。 宿題の形で、イラストアイデアカードを用いて改善アイデアを作成。（実践結果の状況によって、イラストアイデアカードを用いず、進め方に創意工夫を要することが発生する）	住民は、次はこうしたらいい、ああしたらよいと啓発される。
10	次計画立案 (フォローアップWS2)	2.5時間	ステップ6の進め方に準じる。 計画の実践を2～3年と継続するにしたがって、地域経営の視点からの取組みが必要となる。	12

寄りあいワークショップの機能構造

組織の連帯感の再生⇒実践共同体の再創造



- 計画は実行する主体が立案するのが基本
- 計画は実践し、検証して初めて価値をもつ
- 検証することで、取り組みの継続性が生まれる



実践と実践結果の見える化

静岡県沼津市愛宕地区



グルメあしたか

山秋眼科医院
開伐の必要性が学びながら
思い思いの作品を掲げる
開伐材を利用し親子のイベント
愛宕地区が盛り上がり続ける実践活動

その“木”とその“気”で作りますよ!



打ち合わせ



間伐風景

にぎやかになりました



開会式



間伐材の皮むき



あなたはその“き”で何を作ります?
愛宕地区間伐材活用イベント
先着に参加！その場で参加！限らぬ120分！

※実践結果の検証
・間伐材の利用

沼津朝日
愛宕地区間伐材活用イベント
実践結果の検証
間伐材の利用

この“き”の半期実行計画
(にぎわいづくり)

間伐材の利用
継続!

愛鷹マラソン大会
企画

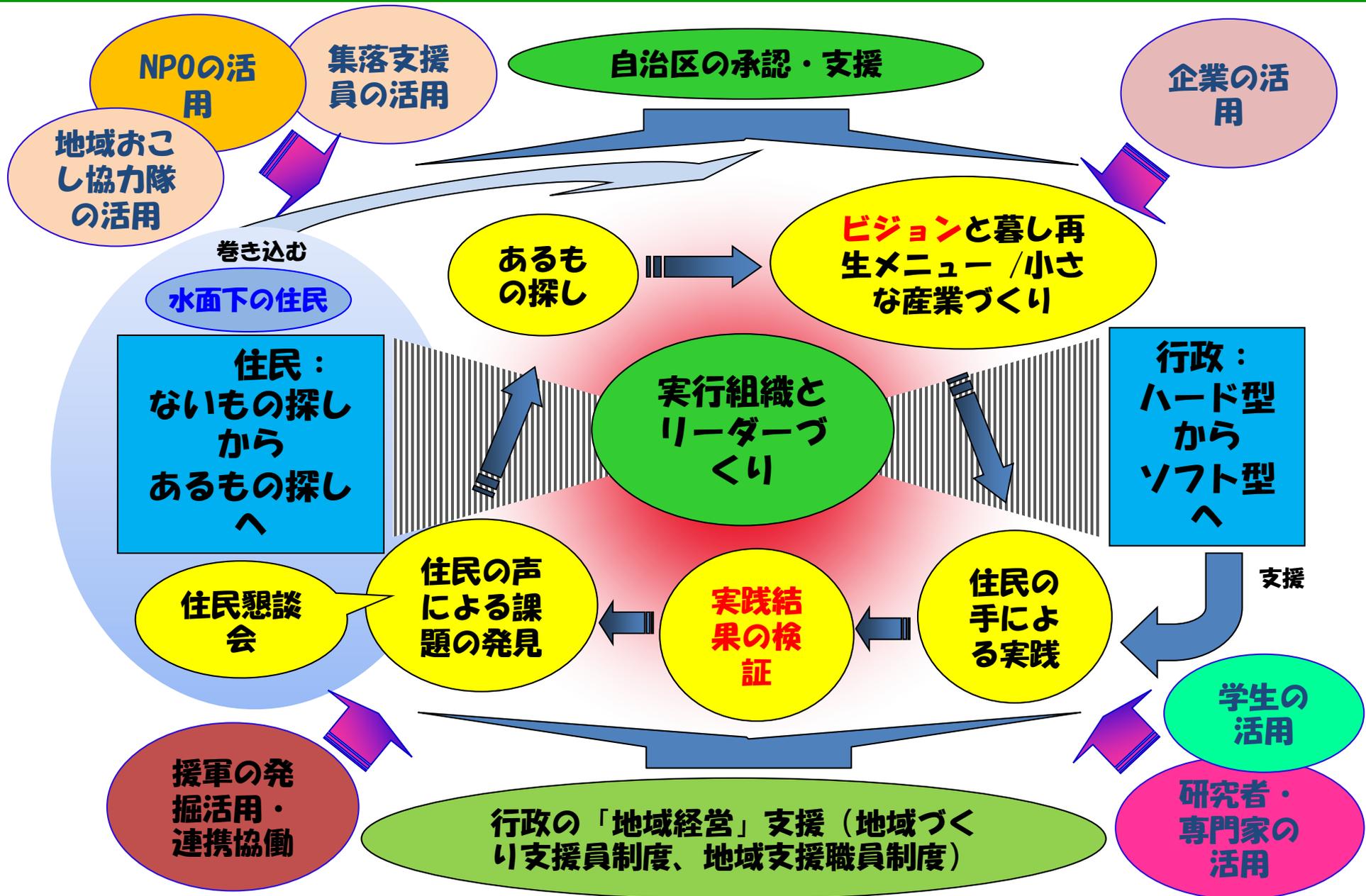
竹の3塚
検討

愛鷹グルメ
継続

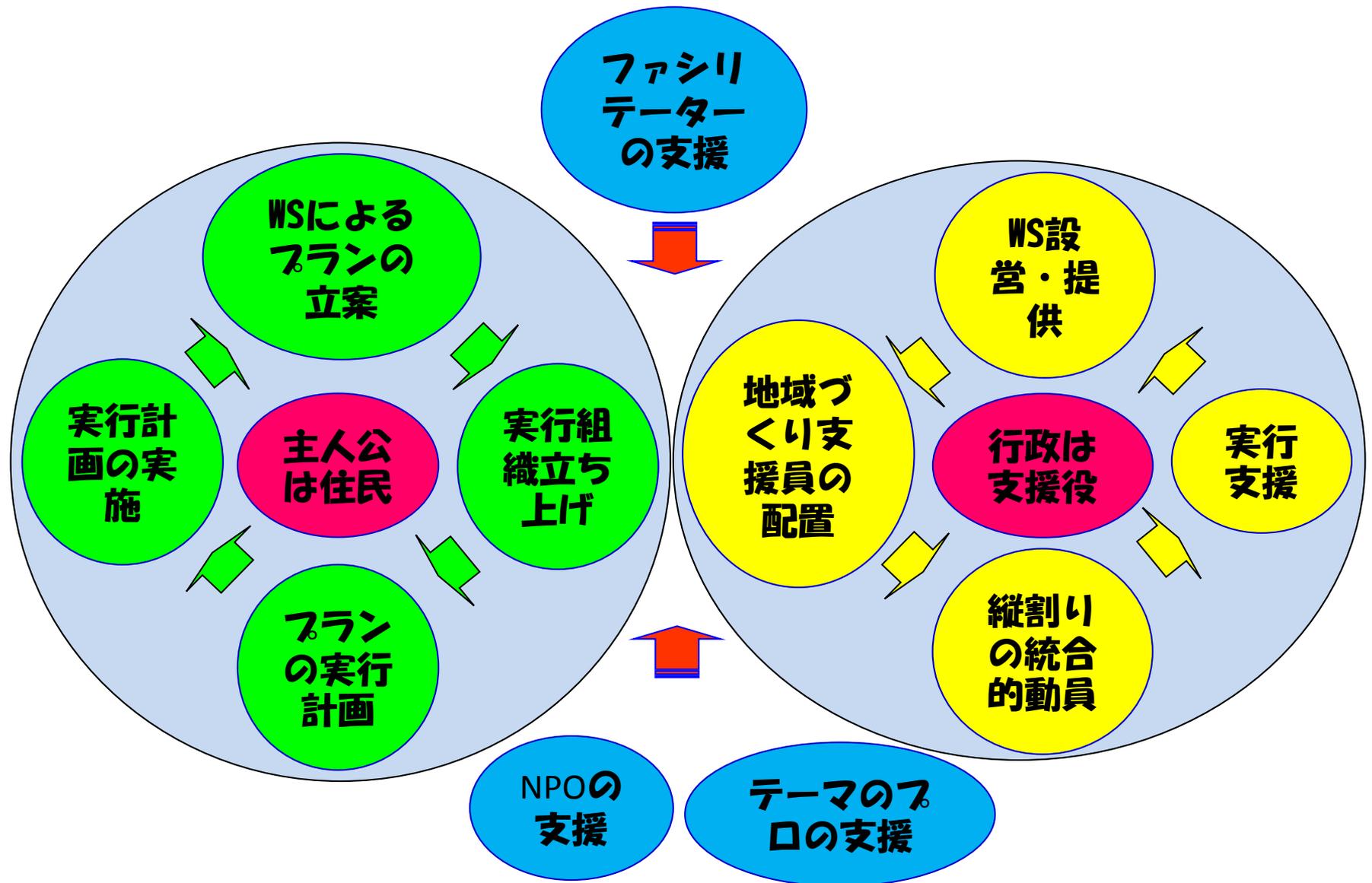
定期的な会議

検証の見える化が次への協働・連帯を生む

寄りあいワークショップ：地域再生の協働の仕組み



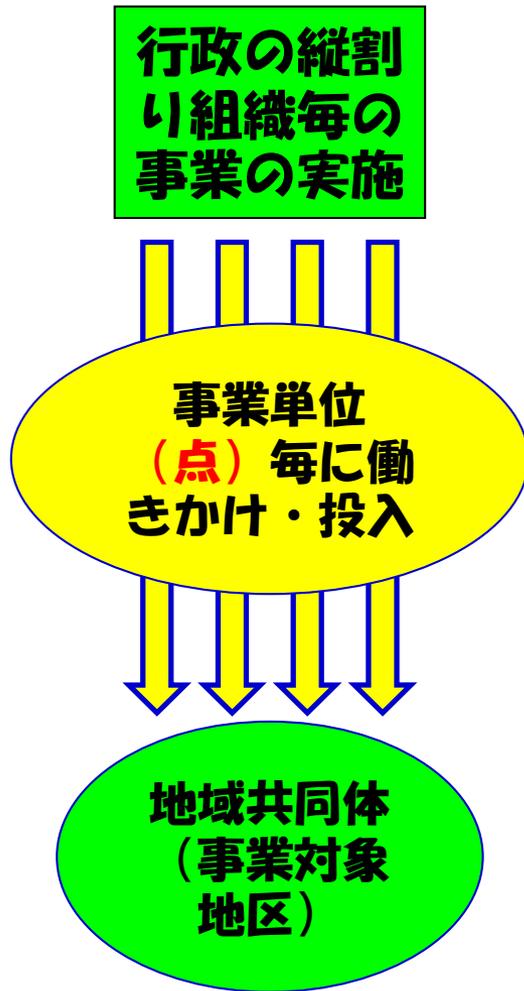
新たな行政システムの確立：住民が主役、行政は支援役



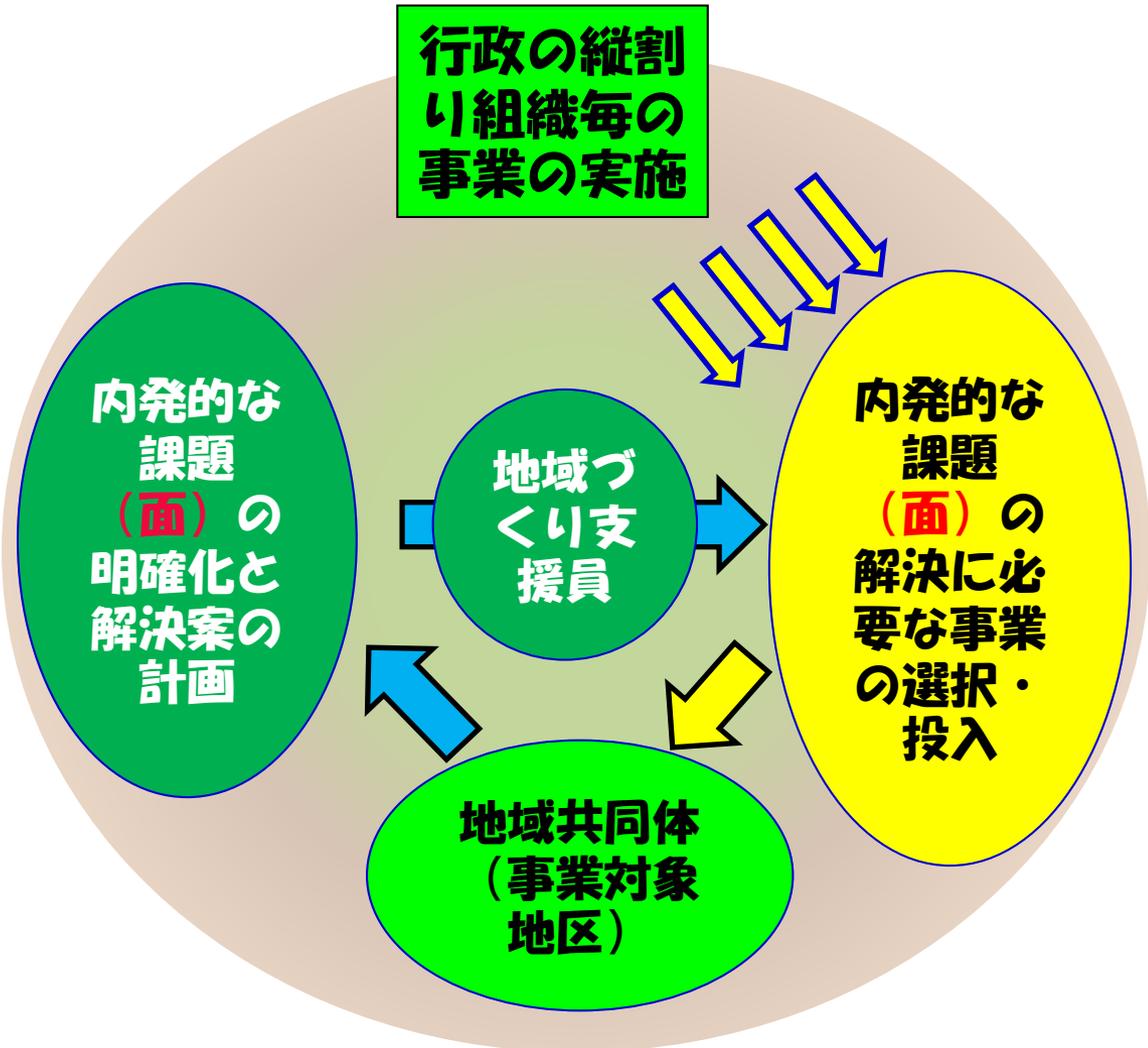
●WSの設営・提供は、「ソフトの基盤整備」事業に位置づく

地域経営支援の要：地域づくり支援員の役割

現状



今後



●内発的な課題「面」の重点課題に焦点を当てて事業支援

町民対話集会を基盤にした総合計画策定と実現化 に向けた取り組み

平成の合併の最終ランナー富士川町。
町民と行政の協働による手作りで、町の
「総合計画」の策定に平成22年5月着手。
地域再生に向けた画期的な試みが始まる。

平成22年度～23年度 富士川町企画課 指導・監修 山浦晴男

策定の枠組み

●目的

地方自治法の規定により、市町村は、事務処理にあたり総合的かつ計画的な行政運営を図るため、「基本構想」を定める必要がある。

●作成手法

【外部組織】(幅広い声を反映させるプログラム)

・「総合計画審議会」(議会、関係諸団体に加え、**公募委員13名**を加えた35名で構成)

⇒諮問・答申

・「タウンミーティング」⇒**町民対話集会⇒区単位で実施(20地区で、各2回開催)**

・「町民意識調査」⇒20歳以上、町民1000人

・「パブリックコメント」⇒提案・意見の集約⇒ホームページなど

・「アドバイザー」⇒提案・意見の集約⇒本町ゆかりの著名人など

●手順

「総合計画審議会」を組織して、審議会への諮問・答申を経て、「町議会」の議決を得る。

【庁内組織】(新町の一体感を醸成するプログラム)

・「行政連絡調整委員会(教育長・課長職)」⇒**庁内策定機関**

・「ワーキンググループⅠ(課長補佐グループ)」⇒**戦略的事業抽出**

・「ワーキンググループⅡ(リーダーグループ)」⇒**事務事業洗い出し**

・「プランナーチーム(担当職員グループ)」⇒**課題研究**

◎ファシリテーター:総合計画審議会と町民対話集会の運営指導と監修

総合計画審議会発足（第1回）・町長から諮問

議会、関係諸団体に加え、公募委員13名を加えた35名で構成



平成22年8月5日(水)

第1回町民対話集会：地域の課題、地域をどのようにしたいのか



地区住民の意見交換



問題・課題意識地図の作成



住民自ら重要度評価・投票

平成22年10月1日(金)～30日(土)

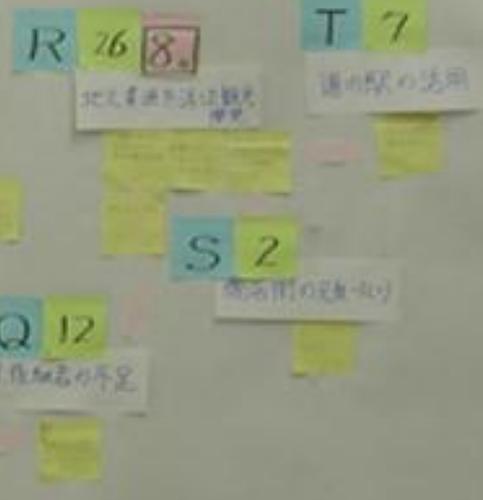
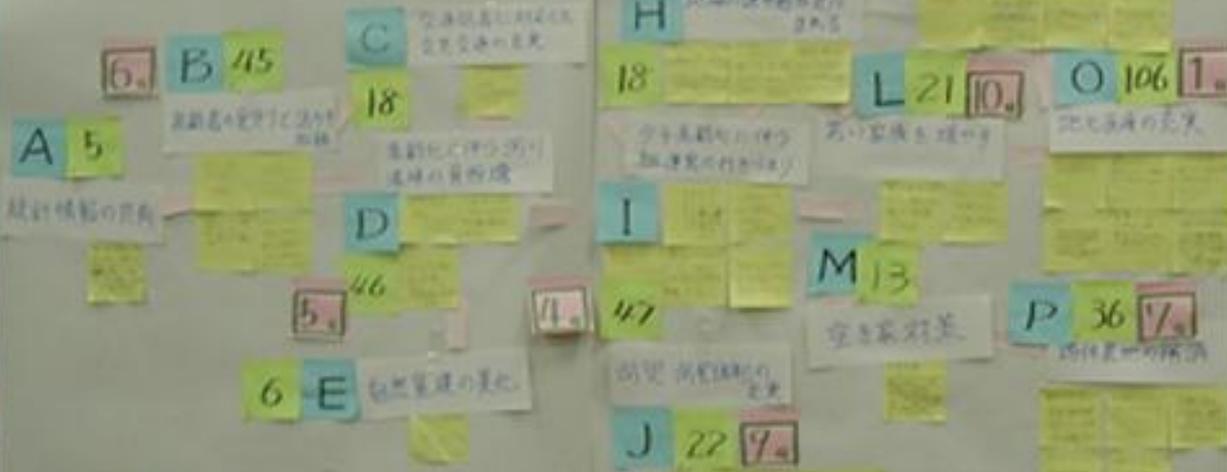


全20地区で開催

地域の課題

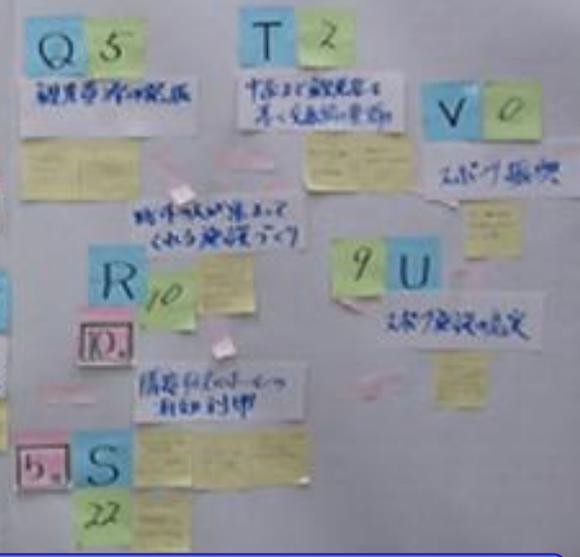
地域をどのように
したいか

3. SIN 安心できる暮らし環境



地域の課題

地域をどのように
したいか



地区単位の問題・課題意識地図

地区の課題上位10位一覧

医療の充実 高齢化対策 道路・施設整備 若者定住人口増加 環境農業振興 防災対策 商業・観光 コミュニティ

共通項目	最勝寺区	天神中央区	大久保区	香米区	小林区	長澤区	大野区	青柳町区	平林区	小室・高下区	本町1区	本町2区	本町3区	本町4区	本町5区	本町6区	中部区	鳥屋	柳川	十谷
1位	地元医療の充実	医療体制の充実	地区への財政支援	香米学校と水車の復活	地域医療の充実	人とのつながりが感じられるコミュニティの活性化	地域医療の充実	地域医療の再生	若西鳥獣対策	道路等の基盤整備	水道水の水质改善	身近な医療機関の充実	認知病院の存続と医療体制の充実	地域医療体制の充実	循環水道の水质改善	分庁舎窓口サービスの充実	海鳥島居トンネルの早期開通	情報通信設備の充実	鳥獣害対策	鳥獣害対策
2位	公民館の立替え	若い人が住みたくなる住環境の整備	人口増加対策	災害対策	通学路の安全	働く人たちの支援	人にとやさしい道路整備	空き店舗の活用による商店街の活性化	西小学校の存続問題	ダイヤモンド富士小屋を活かした観光開発	子どもが安心して遊べる公園の整備	若者の働ける場所の確保	空き家対策	認知病院の跡地利用	高齢者の安心安全対策	入居の災害対策としての活用	公共住宅の建設を含めた若者定住対策	生活道路の整備	情報通信基盤の整備	空き家を利用した定住化対策
3位	安心できる子育て支援	若い人がつばれない介護環境整備	公民館の建替え	里山や棚田の整備	農業や産業の活性化	地域医療問題	消防団員の確保と町の支援	若いリーダーの育成	補助金制度を含めた空き家対策	富士の見える町並み住宅の整備	新田地区南側道路の拡幅	良質な飲料水の確保	若い人達が住みやすい環境整備	防災対策	土手の補強を含めた防災対策	災害対策	学校存続と保育所再開	若者の定住対策	農業基盤の整備	空き家の取壊し等防災対策
4位	少子高齢化に伴う相違の行き詰まり	子どもから老人まで安心して利用できる道路整備	高齢化に伴う医療体制の充実	防災拠点の整備	空き農地の利用	公園等基盤整備	人と人をつなげる環境づくり	安い住宅供給による若夫婦の取り込み	町営住宅の整備	地域の特色を活かして子供の確保	認知病院の診療科目の充実	防犯灯の設置と福祉センターへの道路整備	国道の道路環境整備	子育て支援の充実	高齢者の生きがいのための農地の確保	入居、出入口道路の拡幅	医療体制の充実	医療機関の充実	若年層の減少	大塚の改修
5位	高齢化に伴う河川清掃負担増	隣接する文化ホールの有効利用	町へ人を呼ぶ施策の展開	鳥獣害対策	環境整備	組の重要性、未加入者問題	地域の環境整備	東部開発・道の駅・運動公園の整備	遊休農地の有効利用	地域医療の確保	平西バイパスを踏切する歩道橋の整備	高齢者への地域支援のあり方	空き店舗を活用した商店街の活性化	生活道路の整備	高齢者の日常生活の支援	富士橋のかけ替え	人口増加のための敷設場所の確保	救急医療体制の充実	五開小跡地の有効活用	ヘルポートの設置
6位	高齢者の見守りを生かす取り組み	若い人が住みたくなるまちづくり	基盤整備の促進	香米に柱となる観光施設	若者が生活できるまちづくり	都市計画道路の整備	自然とふれあう場所づくり	青柳町の空間化	女性を呼び込んだ地域活性化	クラインガルテンの整備	防災機能を備えた公園の整備	商店街の活性化	子どもからお年寄りまでが集まる場所の整備	お祭りによる地域への活性化	魅力あるまちづくりの現状維持	富士橋上の畑の維持	情報格差の解消	働く場所の確保	日照不足の解消	等石等防災対策
7位	遊休農地の解消	子ども、大人、老人が交流できるまちづくり	観光ルートの整備	道路、水路の基盤整備	商店街が栄えるまちづくり	長沢東部の土地利用	増穂IC周辺の活用	医療・介護・子育ての充実	平林区の森林整備	地域の高齢化	リサイクルステーションの整備	企業誘致の促進	英語教育をきざし始めた保育・学校教育の充実	区の編成の拡大	公共交通のネットワーク化	身延線の高速度化との有効活用	空き家対策を含めた都市住民との交流	地元で採れた野菜の有効活用	安全な生活道路の整備	生活道路の整備
8位	地域支援を生かした観光開発	助け合うコミュニティの再構築	農道と町道の区別をなくす	地域医療の充実	防災・防犯の充実	住民参加の必要性	コミュニティの形成	行政組織の再点検による効率化	道路等の基盤整備	ゆずの里センターを観光の拠点に	平西バイパスのり面の環境美化	高齢化により地域の団員の退出が困難	公民館の建替え	道路等の雪かき対策	区名の改名	老人ホームなど高齢化対策	遊休農地の団地化と地域グループでの管理	災害に強い地域づくり	災害時の代替道路の整備	観光施設の整備
9位	防災・防犯体制の充実	若い人が住めるための職場整備	スポーツ施設の充実	北山にトレッキングコースを	災害医療の充実	狭い道路の解消	道路延伸拡幅	図書館の整備	新聞やホームページで平林を紹介する	空き家対策	地域内の空地の有効活用	医療費負担の軽減	YLO(福祉センター)を区の公民館に	東田住宅の環境整備	若者の定住対策	町水道の改善	中部地区の工場誘致	高齢化に伴う農業の企業化	高齢者の送迎のための足の確保	迂回路を含めた道路整備
10位	若い家族を増やす	町外の人が集まってくる施設	若者の入りやすい町営住宅の整備	遊休地の活用	高齢者の生きがいづくり	若者の地域活動への参加	耕作放棄地の活用	防災体制のあり方の検討	安心できる防災体制の整備	子供が地元に住まない	町からの情報提供の改善	町内放逐施設の整備	温泉施設の利用の充実	商店街の活性化	地域特産物の開発	過疎対策、空地の有効活用	農業振興のための鳥獣防除と農産物販売	一人暮らし家庭増加への対応	公共交通の整備	町の放送が聞き取りにくい

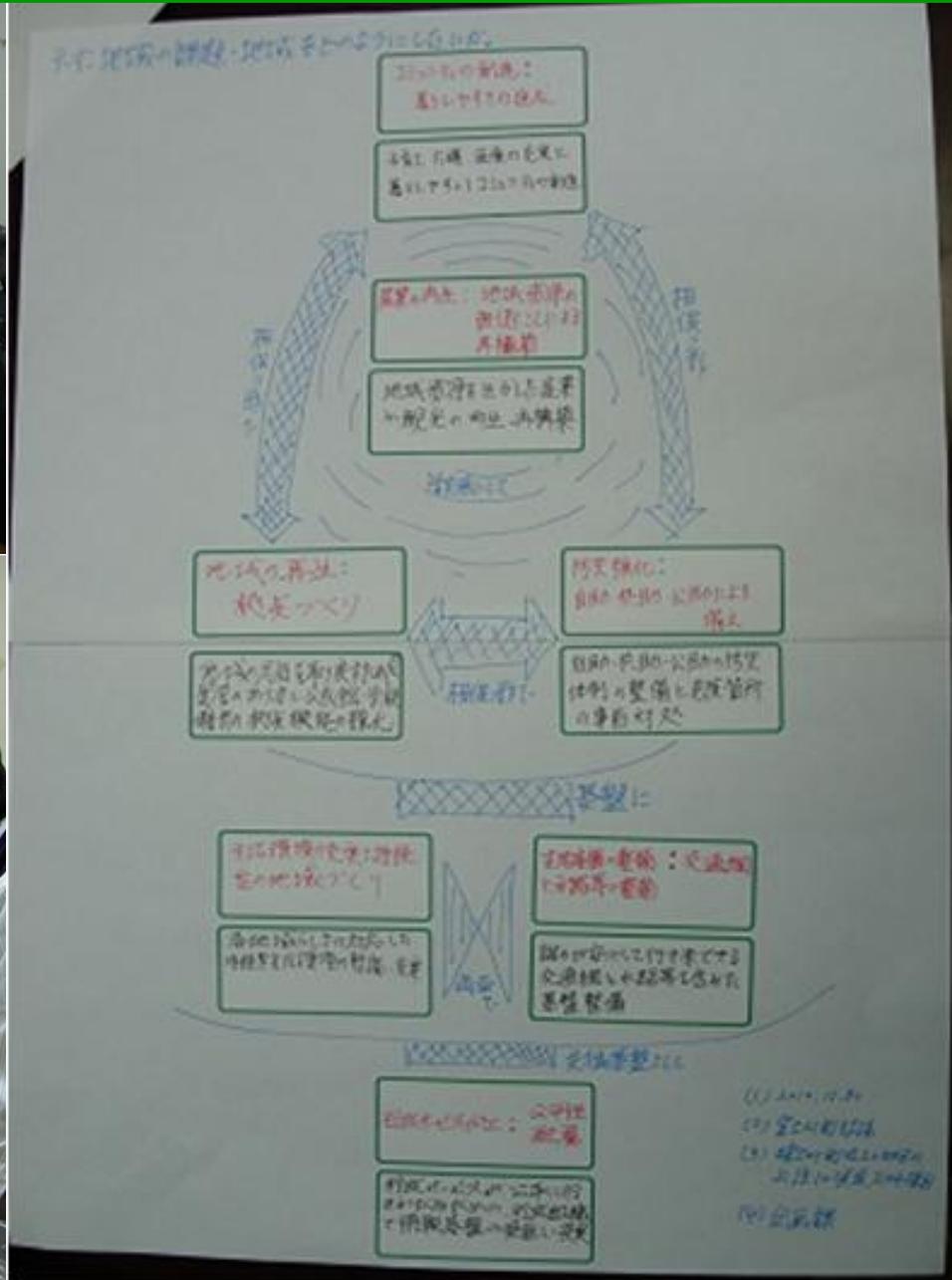
意見地図の考察

- 医療の充実など(ピンク色)医療関係の項目が、20地区のうち15地区において10位以内を占め、比較的上位にランクされている。
- 若者定住など(黄色)の人口増加対策の項目が、20地区のうち17地区において10位以内を占めている。
- 道路・施設など(青色)の基盤整備の項目が、20地区全体で、何らかの整備を要望する声が上がっている。特に、中山間地域では、基盤整備が上位を占めるとともに、鳥獣害対策を求める声もある。
- コミュニティなど(オレンジ色)の地域のつながりを求める声も多くあり、旧増穂地域において上位にランクされている。

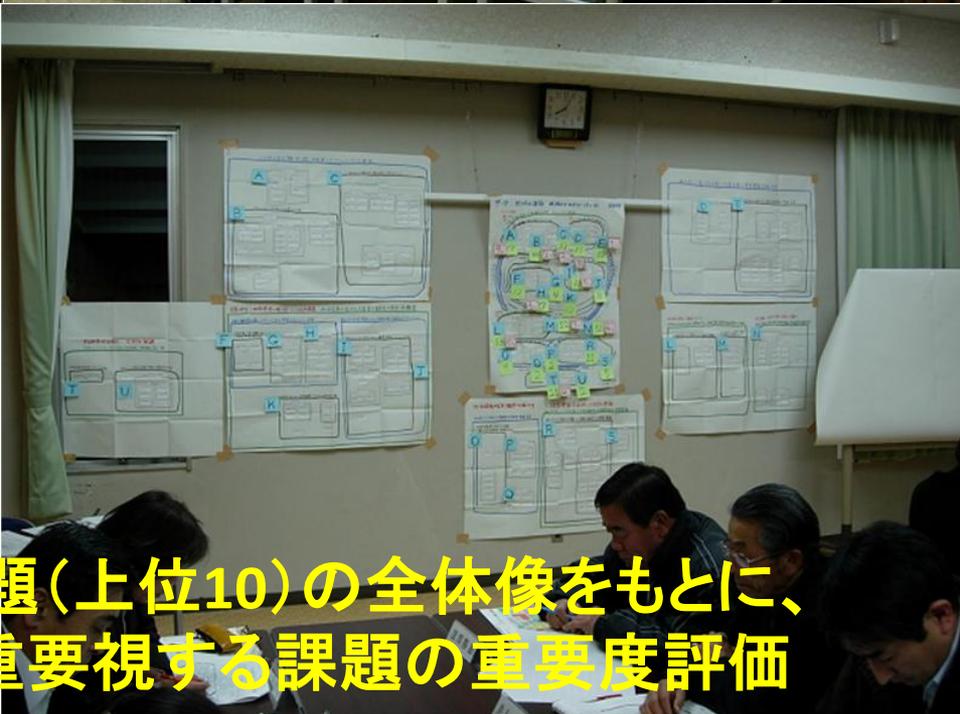
職員で分析作業：20地区の地域の課題（上位10位）の全体像把握



平成22年11月30日(火)

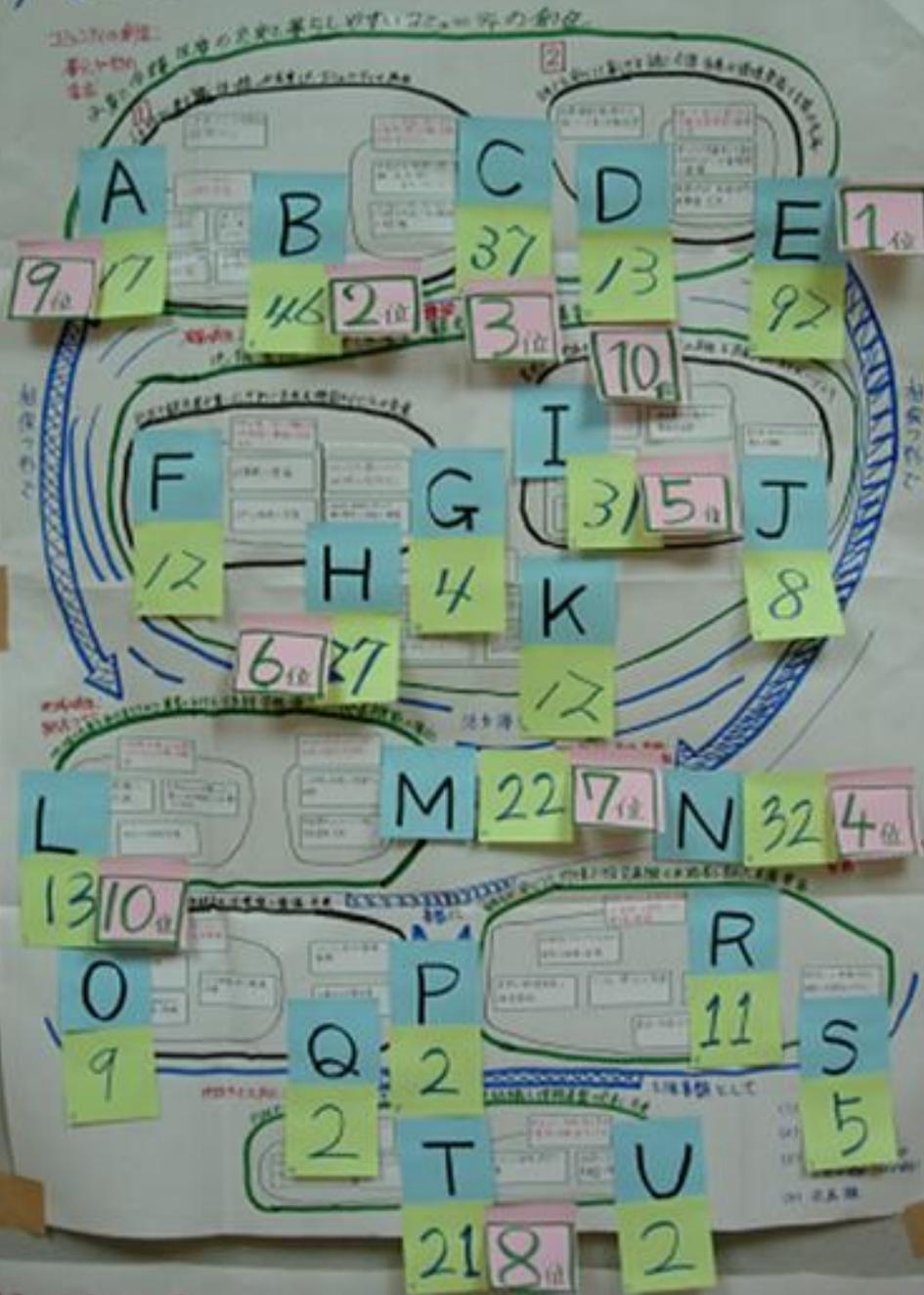


総合計画審議会（第2回）：地域の課題を踏まえ、取りまとめ



平成22年12月22日（水）

テーマ：地域の課題・地域まじりのうらたしたいか 見取図



審議会の重要度評価結果
(20地区から浮かび上がった地域が重要視する課題について、町として重要視する課題項目)

第1位 (92点) : 誰でも安心して暮らせる介護・医療環境の整備・充実

第2位 (46点) : コミュニティの再生と人口増加対策

第3位 (37点) : 子ども・若者・老人まで、お得感を感じる「職・住・遊」が伴うまちづくり

第4位 (32点) : 防災強化 : 自助・共助・公助による備え

第5位 (31点) : 農業を守り、地域資源を生かした農業の再生



委員間で意見交換



区長がオブザーバー参加

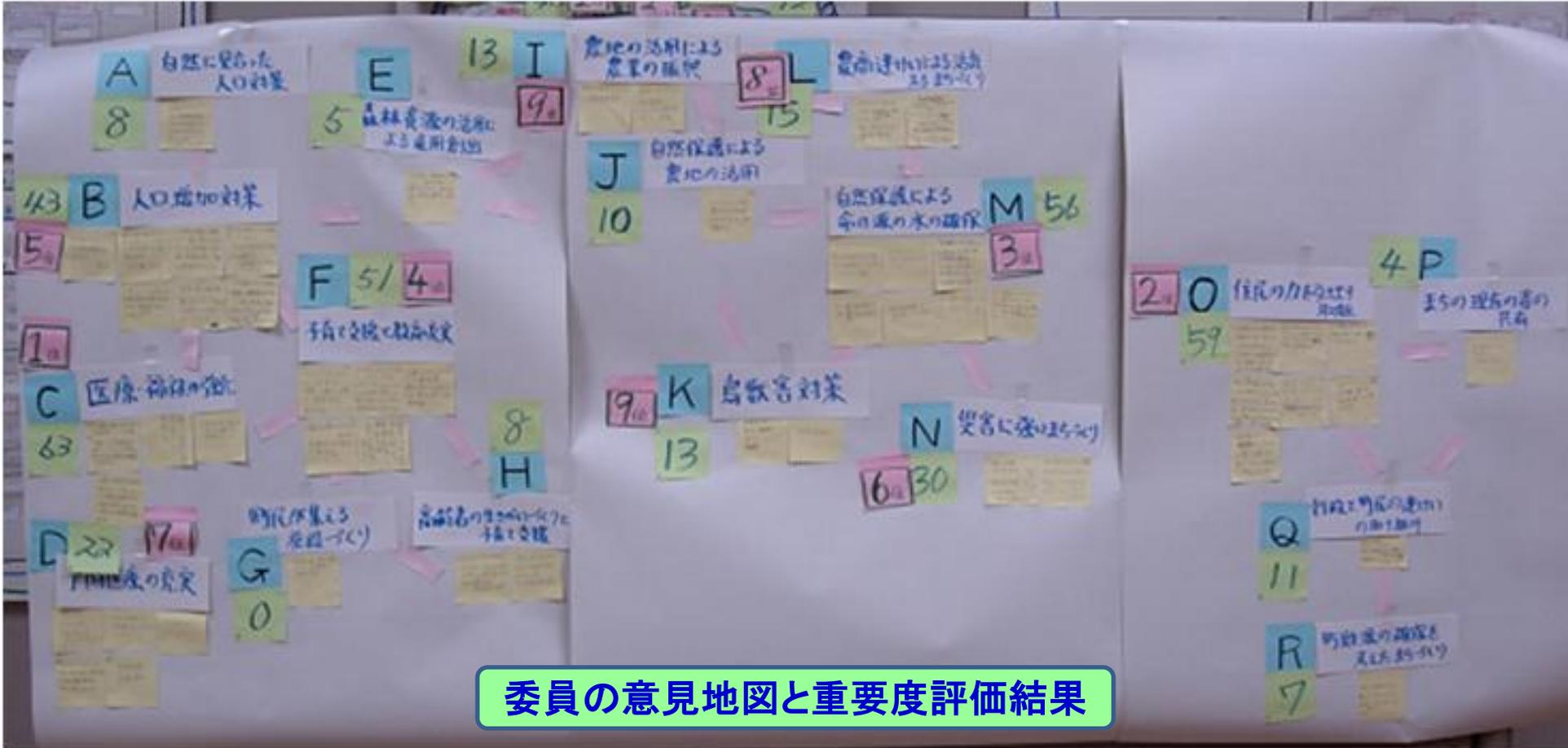


③地域の課題を踏まえ、町として取り組むあり方と方向性の検討

委員が意見カードを記入



全員で意見地図の作成・重要度評価



審議会が導き出した「地域の課題を踏まえ、町として取り組むあり方と方向性」

- 第1位 (63点) : 医療・福祉の強化
- 第2位 (59点) : 住民の力を引き出す取り組み
- 第3位 (56点) : 自然保護による命の源の水の確保
- 第4位 (51点) : 子育て支援と教育の充実
- 第5位 (43点) : 人口増加対策

第2回町民対話集会：地区の課題を踏まえ、地域としてどのような取り組みをしていくか



審議会のとりまとめ結果を説明



各地区ごとに自地区の課題を踏まえ、解決策を立案

平成23年2月4日(金)～26日(土)



解決策の優先度評価

地区の解決策上位10位一覧

医療の対策 高齢化対策 道路・施設整備 若者定住人口増加 理地農業振興 鳥獣害対策 商業・観光 コミュニティ 防災対策

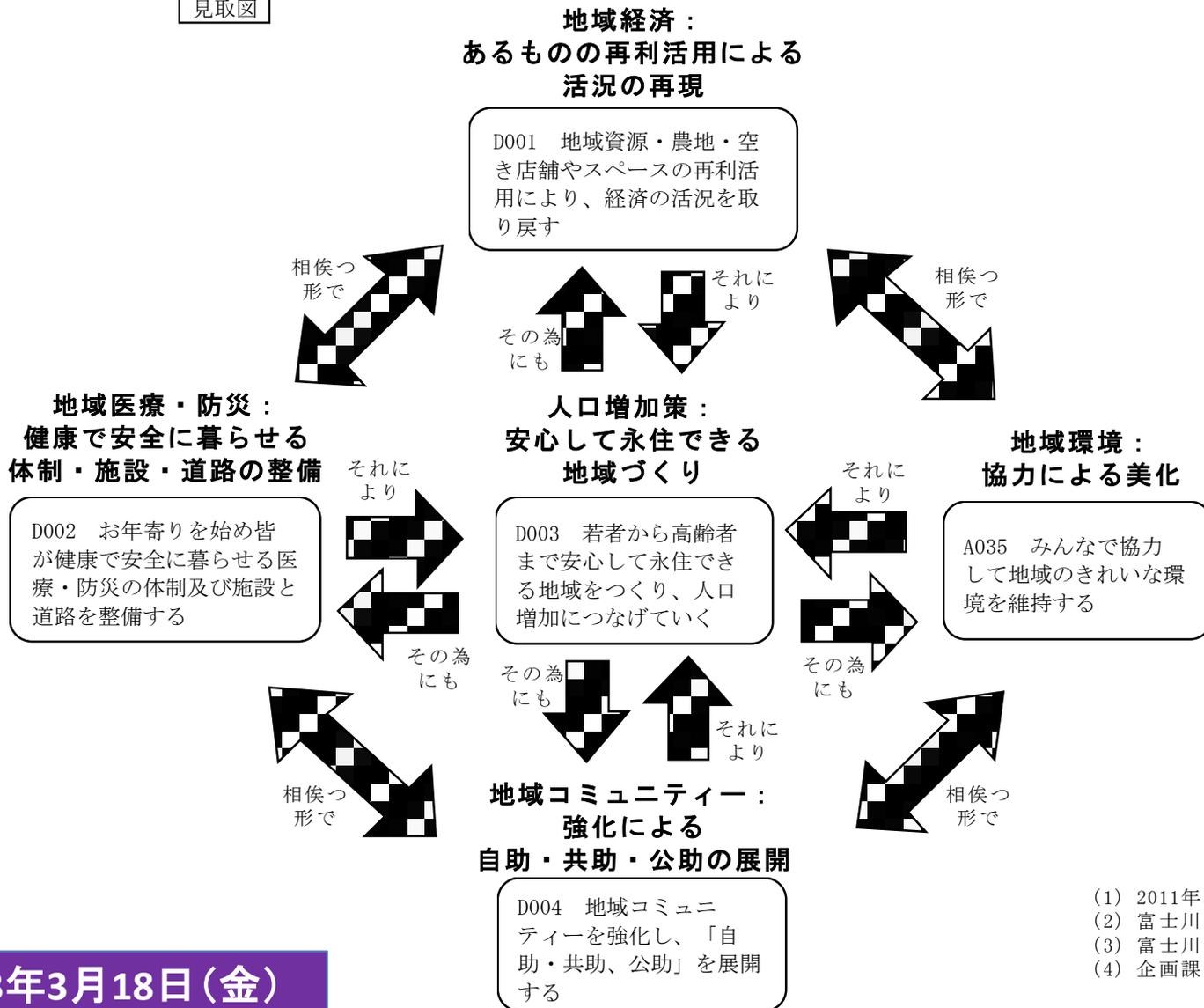
共通項目	最勝寺区	天神中地区	大久保区	香米区	小林区	長瀬区	大門区	青柳町区	平林区	小室・高下区	本町1区	本町2区	本町3区	本町4区	本町5区	本町6区	中部区	鳥屋	柳川	十谷
1位	地域医療の充実	地域の施設を有効に活用しよう	公民館の建て替えに話し、みんなで話し合いを	災害に備えた体制づくり	健康教室への参加機会の増	地域医療の充実	遊休農地を活用し、空き店舗を利用し、あいの場づくり	遊休農地を活用し、空き店舗を利用し、あいの場づくり	草木、竹を採集し、自然の恵れをいっしょに楽しむ	ゆずの里を利用し、観光拠点を作る	新田南側の道路の拡幅	三病院の統合の推進	地元医院との連携による当番医制の確保	地元の手で防災体制づくり	医療機関を結ぶバス路線の確保	人口増に向けて取り組む(大切)	トンネル開通に向けた人呼び込みのためのメニューづくり	みんなでサルを道に誘おう	地域を守る鳥獣害対策づくり	民間の知恵を活用した観光PR
2位	医師の確保の徹底	大人が子どもたちに積極的に声をかけよう	遊休地を宅地化し、高齢者が生活しやすい仕組づくり	高齢者が生活しやすい仕組づくり	みんなで小林農業学校を行おう	ボランティアグループづくり	コミュニティ形成のための公民館活動の活性化	地区防災の取り組みの強化	活動の中心にみよき餅を据える	若者の定住策をみんなで考える	いつでも診療できる病院の確保	回覧板の手渡しによる高齢者への声かけをしよう	地元出身の医師等のリターン運動の展開	若い人を呼び込むための集合住宅整備	病院の跡地に専門学校の誘致	地域の環境整備をみんなで実施	遊休農地を含めた住宅の提供	家庭からの排水をきれいに流そう	地域の活用で根ざり鳥獣害を食い取り、五箇小の活用を	
3位	公民館の建て替え費用を区費に上乗せ	負担にならないようイベントの見直し	地域の資源を活用して積極的にPR	水車の復活と棚田の景観の保存	地域の行事に参加しよう	追加入の推進(パートナー)	消防団員の確保に向けたボランティア組織の形成	空き店舗を利用し、イベントによる人集め	平林での雇用の確立	学校の応援をする人材バンクの設置	食糧の備蓄ができる「食園」・建物の整備	高齢者のサポートと地域力の強化	個人商店と大手スーパーとの提携で買物便を便利にする	内科の充実	食糧等の宅配で高齢者の安否確認	高齢者をサポートする	空き住宅の確保	地域健康の日の実施	地域への人口増の取組み	空き家の意向調査をする
4位	最勝寺を必勝祈願の寺に	全町で文化ホールを利用できる日をつくる	特産品を活用して「おーい」ブランドのPR	高齢者による消防活動の支援	おもちゃをゆずり合う情報交換の場の提供	河川の草刈対策	花づくりから環境整備	ウォーキングマップづくり	平林の資源を活かした特産品の開発	犬を使った鳥獣害対策	防災機能付きの公民館の整備	地域の集会所を利用して高齢者の活路を見出す	役場へ空き家バンクをつくる	若者が合える公民館活動づくり	さくら祭りイベントの活用	日常生活の中でゴミを減らそう	緊急な医療機関の充実	住宅防災に心がける	地域の特色を活かした活性化	地域内の安否確認をする
5位	町の新たな特産品の開発	安心できる道路整備をしよう	町により小型型小売店を建てる	移動スーパーへの補助制度の創設	救急法の訓練を実施しよう	長沢東部の土地の有効活用	若い人の意見を聞く場づくり	医療体制の整備	遊休農地を活用するための情報交換をする	小室山を活用して観光客を呼び込む	子どもが安心して遊べる広い公園づくり	区を含めた組織の整理統合	空き家、空き店舗を活用し、福祉的施設に転用	大法師公園に四季の花を植える	高齢者の移動手段の確保	鳥獣害対策	河川の清掃を地域のひとと町の職員が共同で行おう	近所で井戸掘金掘ができる場所をつくる		
6位	病気で子どもを預かる施設の確保	みんなで交流できる場をつくる	映画等の撮影でPR	町内を回り、町内を回り、町内を回り	消防団員を組織し、活動の場を確保	地域の空きスペースを活用した子育て支援施設の整備	地域の中にコミュニティ委員会をつくる	ボランティアの担い手づくり	高齢者の情報交換をする	地域の助け合いのグループを作ろう	子どもからお年寄りまで楽しめる公園の整備	地域の人材バンクを作る	YLO会館を第3区に活用し、PR	祭り活性化のPR	高齢化に伴うゴミの減量協力の推進	トンネルの早期開通に向けた期成会の推進	地域行事を守り、高齢者の足の確保	みよきを活用した十谷のPR		
7位	高齢者の知恵や技能を伝える場づくり	区民の日を設定し、井戸堀会議をしよう	夜間・休日の救急医療体制の充実	香米学校を拠点として観光PR	安全に子供が通学できるように注意しよう	コミュニケーションの場づくり	農地の活用のための組織づくり	地域の祭りの振興	若い力を引き出した地域づくり	観光ガイドを養成する	平西バイパスの環境美化と観音対策案を提出	生産組合を作り、若者を導入しよう	保育園から英語教師に負担をかける	若者の結婚資金の支給	誰もが集える場づくり	婚活の取組み	いきいき教室の活動	災害時に向けての道路の確保		
8位	人が集まりやすい予防医療の推進	登下校時の住民による巡回をしよう	子育て支援のための施設の充実	必要な情報を開示しよう	子どもクラブの行事にみんなで参加しよう	遊休農地の管理、情報管理	地域での自前の活動	空家対策としての補助金の創設	医療関係者の情報共有	子どもたちが安心して遊べる児童館の取組み	防災の設備、活動への参加	若者定住対策	商店街のお金で買えないサービス努力	地元資源の活用	地元産物で日曜市をしよう	災害時の飲料水の確保				
9位	ウォーキングコースをつくる	産業化できるような介護、子育てシステムの構築	話題性のあることPR	住民による自助、共助の意識付け	実践的な防災訓練をしよう	区のイベントの充実(復活)	地域における医療、空き店舗の実態調査	補助金を活用した若者高齢者対策	富士の見える場所をみんなで作り出す(木を植える)	高齢者の生きがいづくり	若者定住対策	商店街のお金で買えないサービス努力	地元資源の活用	地元産物で日曜市をしよう	災害時の飲料水の確保					
10位	子どもの行事参加を促す組織づくり	大法師公園を通称公園にする	防災に対する地域組織の充実	香米学校移転に向けた募金活動をはじめよう	リサイクル運動をしよう	若者の地域活動の参加を家庭教育から	時期を決めた地域清掃活動	空家を活用して移住してもらおう	空き家・農地等の情報共有ネットワークを作る	若者定住対策	空家対策の補助金創設	空き家対策の補助金創設	空き家対策の補助金創設	空き家対策の補助金創設	空き家対策の補助金創設	空き家対策の補助金創設	空き家対策の補助金創設	空き家対策の補助金創設	空き家対策の補助金創設	空き家対策の補助金創設

解決策地図の考察
 ○ はほとんどの地区においてコミュニティなど(オレンジ色)は、地域のつながりを強化して、課題を解決していく提案が出されている。
 ○ 人口増加・若者定住など(黄色)の提案が多く、「空き家」を活用した取り組みが多く提案されている。
 ○ 観光対策など(紫色)は、地域の資源を活用したPRが多く、また、高齢者対策(黄土色)は、近隣による見守りや助け合いの提案が多い。

職員で分析作業：20地区の解決策（上位10位）の全体像把握

富士川町・解決策（上位10位）の全体像

見取図



- (1) 2011年3月18日
- (2) 富士川町役場
- (3) 富士川町20地区の上位10
- (4) 企画課

平成23年3月18日(金)

総合計画審議会（第3回）：解決策を踏まえ、町としての取り組み方のあり方の方向性



①地区の解決策(上位10)の全体像の報告
と町としての住民解決案の重点方向の評価



平成23年3月31日(木)



②町としての取り組むあり方の方向の
検討と重点評価

審議会：町としての住民解決案の重点方向

第1位（53点）：みんなで健康づくりに取り組み、いつでも診てもらえる医療体制の確保を働きかける

第2位（48点）：地域活動組織をつくり、「自助・共助・公助」の取り組みを展開する

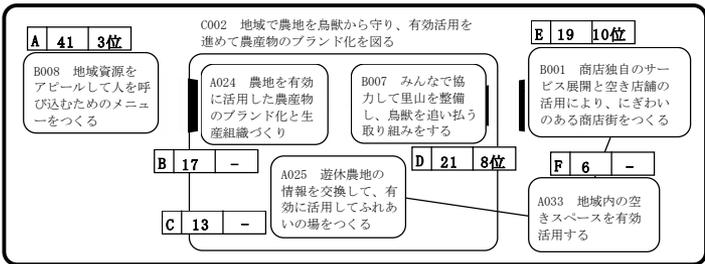
第3位（41点）地域資源をアピールして人を呼び込むためのメニューをつくる

第3位（41点）：教育の充実と施設の整備により、子どもたちが伸び伸びと育つ環境をつくる

第5位（40点）：地域で防災組織を立ち上げ、消防団員の確保に取り組む

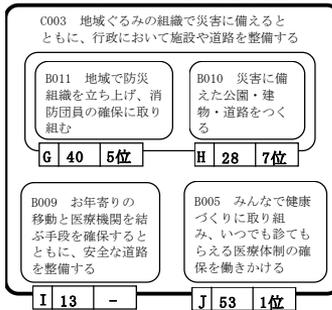
01 地域経済：あるものの再活用による活況の再現

D001 地域資源・農地・空き店舗やスペースの再活用により、経済の活況を取り戻す



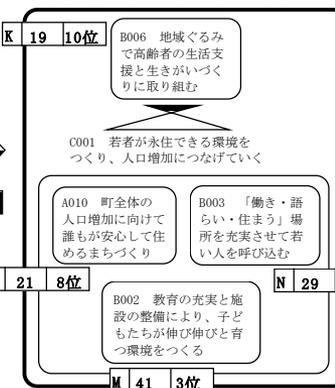
02 地域医療・防災：健康で安全に暮らせる体制・施設・道路の整備

D002 お年寄りを始め皆が健康で安全に暮らせる医療・防災の体制及び施設と道路を整備する



03 人口増加策：安心して永住でき地域づくり

D003 若者から高齢者まで安心して永住できる地域をつくり、人口増加につなげていく



04 地域コミュニティ：強化による

04 自助・共助・公助の展開

D004 地域コミュニティを強化し、「自助・共助、公助」を展開する



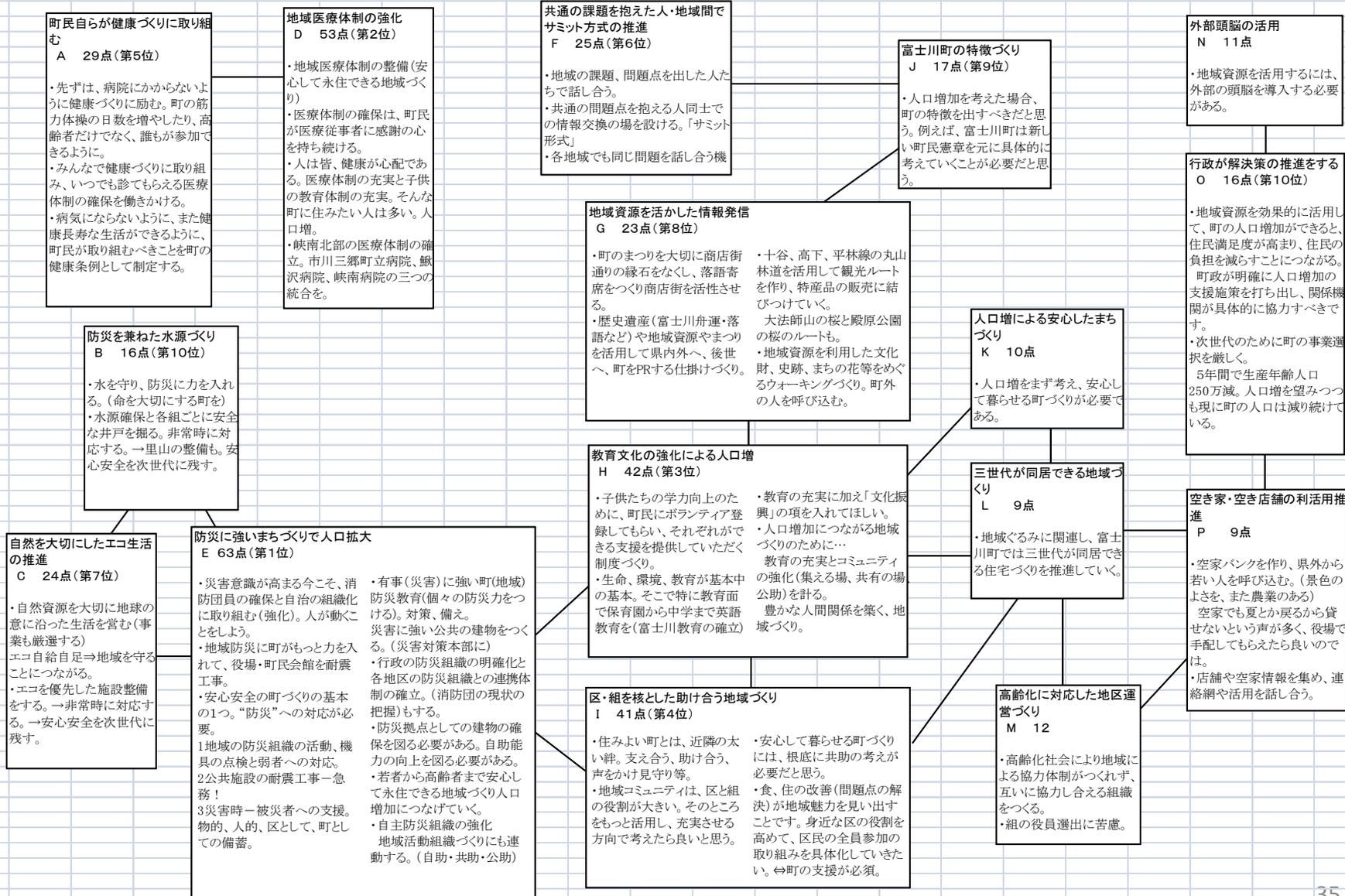
注1) 各ブロックの左肩の数字は、細部図の番号を示す。
 注2) ブロック内のアルファベットの記号は、優先度評価の対象単位を示す。
 注3) 評価対象の記入欄は、次の内容を記入する。
 【アルファベット：投票結果の総得点・順位】

(1) 2011年3月18日
 (2) 富士川町役場
 (3) 富士川町20地区の上位10位
 (4) 企画課

審議会：町としての取り組むあり方の方向

富士川町総合計画審議会：「解決策を踏まえ、町として取り組むあり方の方向性」意見地図

日時：平成23年3月31日(木)



職員で計画作業：住民対話集会と審議会の検討をうけ、基本構想（案）と基本計画（案）を立案

富士川町第1次総合計画（案）抜粋

重点施策

審議会による方向性の評価順位

日時	順位	項目	点数
H23.3.31	1	防災に強いまちづくりで人口拡大	63
	2	地域医療体制の強化	53
	3	教育文化の強化による人口増	42
	4	区・組を核とした助け合う地域づくり	41
	5	町民自らが健康づくりに取り組む	29
	6	共通の課題を抱えた人・地域間でサミット方式の推進	25
	7	自然を大切にしたエコ生活の推進	24
	8	地域資源を活かした情報発信	23
	9	富士川町の特徴づくり	17
	10	防災を兼ねた水源づくり	16
	10	行政が解決策の推進をする	16
	12	高齢化に対応した地区運営づくり	12
	13	外部頭脳を活用	11
	12	人口増による安心したまちづくり	10
13	三世代が同居できる地域づくり	9	
14	空き家・空き店舗の利活用推進	9	

重点施策は、「将来像」の実現に向けて「基本目標」を達成するために、重点的に取り組むテーマであり、総合計画の各種施策を先導していく根幹となるものです。町内各地区の課題を解決するために、町民と行政が協働して取り組むことを念頭に「自助・共助・公助」をキーワードとして展開していきます。

安心して永住できる地域づくり
地域コミュニティ強化による「自助・共助・公助」の展開

施策展開（プロジェクト）

- 1 区や組を核とした助け合う地域づくりプロジェクト
 - 一番身近である区や組の組織を活用して、地域の将来を見据えた計画をつくり、行政と住民が協働して、みんなで助け合う地域づくりを促進します。
 - ① 地区まちづくり計画策定支援 [1-1 P 5]
 - ② 地域間サミットの開催 [1-1 P 5]
 - ③ 助け合いグループづくり [1-1 P 5]
 - ④ 住民間のふれあいの場づくり(井戸端会議など) [1-1 P 5]
 - ⑤ 井戸端会議の励行 [1-1 P 5]
 - ⑥ 三世代交流の推進 [1-1 P 5]

- 2 学校教育と生涯学習の推進による豊かな人材育成プロジェクト

総合計画審議会（第4回）：基本構想（案）、基本計画（案） 審議



平成23年8月9日（火）

総合計画審議会・町長へ答申



平成23年8月12日(金)

第3回町民対話集会：課題の解決をどのように展開していくか



①町から、基本構想と基本計画の説明



平成23年11月4日(金)～29日(火)

No.	ファイア項目	種類 (ABC ランク)	緊急度(高いほど優先する) (優先度A)			実施主体・主体(担い手) (優先度A)			備考
			短期 ★C (1年以内)	中期 ★B (1-3年)	長期 ★A (4年以上)	住民	協働で	行政	
1	防災訓練の回数・内容の充実	B		●		●			
2	防災訓練の回数の増加	B	●			●			
3	防災訓練を利用したイベントによる人集め	B		●		●			
4	ウォーキングマップ作り	C				●			
5	避難訓練の充実	A				●			2/15/2024
6	防災マップの作成・更新	C				●			
7	避難所の整備・確保	C	●			●			町民センター
8	避難所の整備・確保	C	●			●			町民センター
9	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
10	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
11	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
12	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
13	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
14	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
15	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
16	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
17	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
18	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
19	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
20	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
21	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
22	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
23	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
24	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
25	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
26	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
27	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
28	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
29	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
30	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
31	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
32	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
33	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
34	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
35	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
36	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
37	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
38	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
39	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター
40	防災マップの作成・更新	A		●		●			町民センター

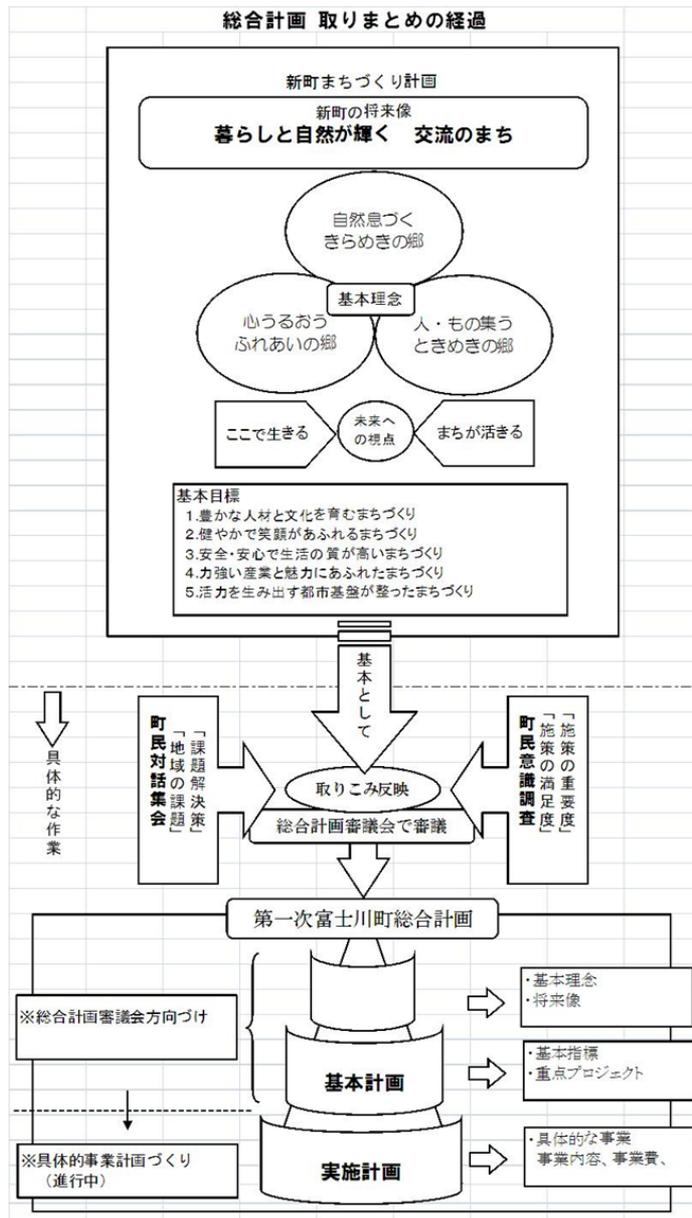
②地区実行計画のとりまとめ

地区の実行計画の例、全地区で作成

地域の課題・解決策 実行計画表										【最勝寺区】
優先度の評価順位	アイデア項目	難易度 (ABC ランク)	緊急度(いつまでに実現するか) (●印の記入)			役割分担・主体(誰がやるか) (●印の記入)			着手 順位	備 考
			短期 早く (1年以 内)	中期 2～3年 以内	長期 ゆっくり (4～5年 以内)	住民	協働で	行政		
1	地域医療の充実	A		●				●		46
2	医師の確保の制度化	A		●				●		45
3	公民館の建て替え費用を区費に上乗せ	B		●		●			1	37
4	最勝寺を必勝祈願の寺に	C		●		●	●		2	最勝寺の協同、町でPR 24
5	町の新たな特産品の開発	B		●		●	●		4	21
6	病気に子どもを預かれる施設の確保	A	●					●		17
7	高齢者の知恵や技能を伝える場づくり	B		●		●	●		5	公民館活動の中でやっていける
7	人が集まりやすい予防医療の推進	C	●			●	●		6	16
9	ウォーキングコースをつくる	B		●		●	●		10	15
10	子どもの行事参加を促す組織づくり	B		●		●	●		8	公民館活動の中でやっていける
10	ゆずの里ウォーキングとゆず狩りのコラボ	B		●		●	●		12	9と同じ ゆず狩りは危険では小
12	参加して得するイベントの工夫	B	●			●	●		8	8
12	遊休農地を区民農園にしよう	A			●		●	●		8
14	組単位で高齢者の見守りを行う	C	●			●			2	7
15	あいさつ運動の励行	C	●			●				6
16	コンビニ受診を減らす	B			●	●	●		11	公民館活動を充実させればそれ
16	青柳東部と連携した最勝寺区の発展	A			●		●	●		5
18	定期的な組常会を行う	B	●			●			7	期によって事情が違っているので、一

※難易度ランク A…難しい、B…普通、C…やさしい

総合計画取りまとめから実行へ



平成24年度から地区実行計画に基づいて実行段階へと進む

地区実行組織の立ち上げ

地域支援職員制度

地域再生ファシリテーターの支援

2011年度県・県立大学主催「地域再生ファシリテーター養成講座」の受講者（「新しい公共支援事業」の一環として実施）。県ボランティアセンターを窓口派遣の支援を受ける計画。

地域支援職員制度の導入

地域支援職員制度の概要

これからのまちづくりでは、町民と行政の協働によるまちづくりの仕組みを構築することが不可欠となっています。

なかでも、「地域がやるべきこと」「行政の支援を受ければ地域でできること」「行政が進めること」を明確にして、それぞれの役割と責任を果たし、町民と行政がいっしょになって知恵と汗を出し合うことが必要です。

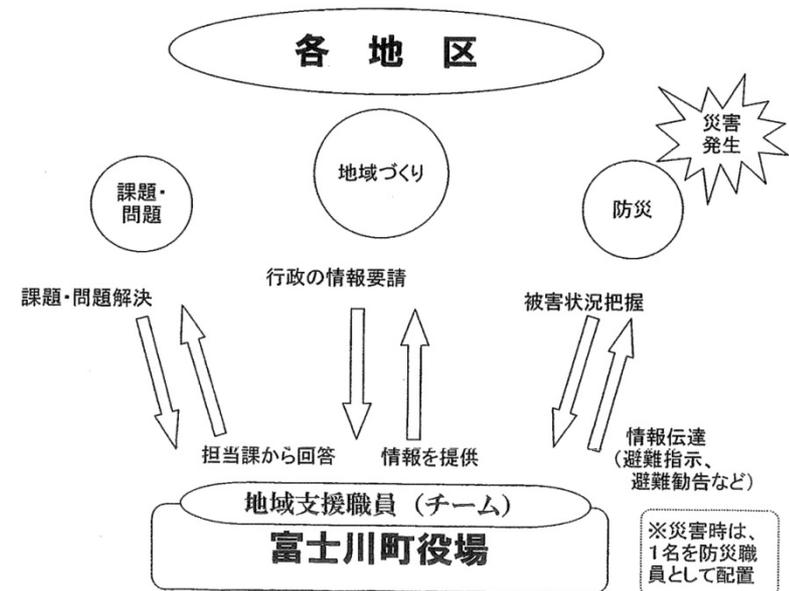
そのために、地域と行政を結びつける“パイプ役”として、地域支援職員を配置して、情報や課題を共有しながら、町の活性化と発展を目指すこととします。

主な活動

- 1 地区の会議等への出席（区の要請により、必要に応じて出席）
地区の問題や課題の把握と解決策を検討するための情報収集と提供
- 2 地区からの要望等への対応
要望事項の調整・確認や対応状況の回答、関係課への伝達
- 3 災害時における自主防災組織との連絡調整（自主防災配置）
役場との無線による情報伝達、被害状況の把握と報告
- 4 まちづくり地域活動事業の推進と支援（総合計画フォローアップ活動）
地域としてできる活動に対する情報提供

※次の事項は、活動からは除きます。

- ① 個人的な要望や苦情等の処理
- ② 区などの事務局や会計等の庶務など



住民と町職員が動き出す

富士川町が整備に着手 源氏山へのルートに活用

穂積の「湯道」登山道で復活

富士川町は、昭和30年代まで穂積地区の住民らが使っていた生活道路を、山梨百名山の一つ源氏山(1827m)への登山道として復活する。倒木の除去や看板を設置するなどして整備。登山道としてのほか、将来的にはトレイルランのコースにするとも検討している。

町商工観光課によると、整備するのは穂積地区の泊平から八町山までの約2キロの区



主 祐 圭
宇賀 神 将 樹

＝富士川町内



達により次第に使われなくなつた。登山道は穂積地区の住民から「昔の道を復活させ、地域の観光資源にできないか」という声を受けて整備。5日には町職員ら約10人が危険箇所の有無などを調査した。年度内をめどに案内板の設置や危険箇所を整備するなどして、人が歩けるようになる。

古くは奈良時代の女帝・孝謙天皇が早川町内への湯治のために通つたとされ、地元住民には「湯道」として親しまれていた。昭和30年代までは、商売人や西山温泉に向かう湯治客などにきわい、1959年の伊勢湾台風時には、孤立した早川町西山への食料輸送に使つたという。この後、道路網や車の発

整備後は、源氏山への登山道として活用する。将来的には穂積と平林、十谷までの登山道をつなぐ、トレイルランのコースとすることも考えている。

町担当者は「歴史的にも古い道。源氏山への新しいルートとしてなど、新たな観光資源として有効に使ってほしい」としている。



2012.7.13(木)

富士川町の資源冊子で紹介

富士川町のNPO法人や住民団体などで構成する「町伝統文化活用実行委員会」は、町内の文化や歴史資源について紹介する冊子「富士川町伝統文化ものがたり」写真集を作った。町内の小中学校や住民団体などに配布。文化への理解を深めるとともに、観光PR用の資料としても活用する。

住民らが製作、観光PRにも活用



平林地区の「氷室神社の神楽」春米地区の「春米の銭太鼓」を取り上げている。

昨年度に開いたワークショップでの情報を基に、各地区で保存活動に取り組み住民が歴史や現状などを紹介した文章を書き上げた。写真と地図も掲載している。今後有形民俗文化財など計4冊の冊子を作るほか、伝統文化を紹介する動画も作製する。

冊子は町内の小中学校などに配布したほか、町施設にも置いている。実行委は「町民に伝統文化について知ってもらつとともに、観光客に町をPRするための道具としても使ってほしい」としている。

地域の文化資源を観光振興に結びつけるのが目的。今回のテーマは「無形民俗文化財」で、1万部を作った。飯沢地区の「飯沢ばやし」、穂積地区の「仙洞田の歌題目」、



「伝統の力」に「革新の力」を加え
10年先
100年先の
暮らしの礎づくりを
目指しましょう